

学校点描

ようやく気温が上がり始めました。その分、マスク着用の新たな心配を感じています。

《M中学校》

NO.3 R2. 5. 26

担当：校長

ようやく学校が動き出した感じがします。5月19日（火）は、対面式を行いました。もちろん、全校を一同に集めることができませんでしたので、広いランチルームには1年生と生徒会役員の生徒に集まってもらい、その様子は会議用アプリを使って3年生と2年生の教室に映像を配信しました。この初めての試みは、なかなか思った通りにはいきませんでした。音がよく聞き取れなかったこと、1つのクラスの映像がフリーズしてしまったことなどです。この反省をもとに、生徒総会ではもっとうまく映像を配信するための改善をしていきます。

休業中に行った、DVDの映像学習についてのアンケートを学習活動部でとってもらおうと思います。家で授業の映像を見るということはこれまでなかったと思いますが、どうだったのでしょうか。家庭での学習の質を高める上でも、忌憚ないご意見をお願いします。初めての試みは、様々な意見や感想があってこそ、本物になります。

スタートのドキドキ

各担任の先生が職員室に生徒から集めた雑巾を持っています。真っ白に積み重ねている雑巾の山を見ると、自分の小学校のときの思い出を思い出します。

わたしが小学校5年生の4月のクラス替えの時、担任として教室にやってきたのは、おっかなそうな男の先生でした。5年6組の44人。学年全部で270人近く、全校で1000人以上の児童がいたのですから、クラス替えになる度、周りには知らない人ばかり。ただでさえ、不安だというのに、担任の先生は、ブスーとしたおっかなそうな人。もう、4月のドキドキは最高潮でした。挨拶もそこそこに、おっかなそうな男の



先生が、明日まで持ってくる物を言います。「明日まで、掃除で使う雑巾を、1人1枚持ってくるように。雑巾は、お家の人から、縫ってきてもらいなさい。みんな、それができるね。」わたしが子どもの頃は今と違って、雑巾なんてお店で売っている物ではありませんでした。各家庭で縫ってこしらえる物だったのです。おっかなそうな先生が最後に言う、「できるね」という台詞は、「約束だから、絶対守れよ！」と聞こえてしまうんです。第1印象は、大切ですね。「どうしても、無理だという人は、手を挙げて！！」ふと見ると、隣の女の子が手をすくーと挙げました。なんと、勇ましい、なんと無茶苦茶なと思いましたね。でも、その女の子の目は、凜としているんです。「あの、先生！！わたしのお母さんは、今、病気で入院しているんです。祖母も目が悪くて、縫い物はできません。わたしの手では、明日までは無理だと思います。」

なんと、ハッキリ、そしてなんと自分の思いを上手に伝える子だろう。隣の女の子を見て、なんか自分と住んでいる世界が違うような気がしましたね。女の子に対して、先生はなんて言うのか、43人全員、水を打ったような静けさです。「じゃあ、誰か、その子の分まで、1枚縫ってきてくれ。以上！」

みんな初めて会ったような人ばかりで、その子のことなんて知らない人ばかりです。みんなキョロキョロ、どうしていいのかわかりません。その女の子も、申し訳なさそうに下を向いてしまいました。

わたし達教師も、転勤族ですが、新天地への移動は何度行っても、ドキドキの緊張感ですね。今年はわたしがそうです。生徒たちは、3月からずっと家にいたのですから、久しぶりに人と交わる緊張感できっと今は、疲れてきている頃ではないでしょうか。そんな生徒たちの状況を知っていると、大人は先回りしながら、子ども達の精神的なストレスの状態を考えてあげることができます。

小学校の新しいクラスが決まった日、家に帰ると、雑巾を明日まで縫って持っていくことを母に伝えました。でも、あの隣の女の子のことが頭を離れません。全然話をしたことのない子の雑巾を持っていくと、変におもわれやしないか悩みました。でも、思い切ってもう1枚、母に追加のお願いをしたんです。自分の勇気と、あの女の子の勇気を天秤にかけて考えたんですね。

次の日、新しい学級の5年6組に行くと、女の子の机の上に、40枚以上の真新しい雑巾があがっていました。わたしも、雑巾の山の上に、母が縫った雑巾をのせます。「ありがとう」女の子がにっこり笑顔で返してくれました。

教卓では、あのおっかなそうな先生が、やさしい笑顔の先生に変わっているんです。

新学期スタートのドキドキの後に来たのは、やさしさのニコニコでした。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。